

報告 3 資料 1

2019 年 12 月 26 日

広報検討部会について

学会事務局：小田切

1. 委員会開催について

・委員会開催

日時：2019 年 9 月 20 日（金）18:05～19:30

場所：ZOOM を利用した WEB 会議

議事：1. ニュースレターについて

2. 学会ホームページについて

3. 会員、非会員とのコミュニケーションについて

・その他、メール等での意見交換、議事に関する論点整理表の作成・共有等を行った。

2. 答申の方向性について

答申の目次案および議論の方向性は以下の通りである。

<答申の目次案>

1. 検討の経緯

2. 検討の経過

(1) 学会広報に関する現状と課題

(2) 広報検討部会における議論・検証

3. 答申

(1) 学会ニュースレターのあり方について

(2) 学会ホームページ運用について

(3) ソーシャル・メディアの活用について

(4) その他

<部会における意見・議論等（抜粋）>

(1) 学会ニュースレターのあり方について

- ・冊子の形をとらないでもよいのでは
- ・コンテンツを整理して発信する／イベント情報等は WEB・SNS で
- ・学会員向けの情報と非会員向けの情報を分けて発信するかどうか
- ・会員向け情報は、メルマガや学会 ML（NPO-NET）での発信でよいのでは
- ・対外にも発信できる情報は、オウンドメディア（ネットニュース）の形式で発信してはどうか

報告 3 資料 1

(2) 学会ホームページ運用について

- ・デザイン等は現状のままで問題ない／ブランディングのためにはデザインをプロに依頼
- ・原則としてニュースのみを更新するなど、HP 自体の頻繁な更新は行わない。HP 運用に予算をかけるのは時代にそぐわない。
- ・コンテンツが複雑になっており、WEB に載せるものと SNS 等で発信するものを分けて整理する。

(3) ソーシャル・メディアの活用について

- ・Facebook か／twitter は頻繁な更新がなければ効果が薄い。
- ・Facebook のグループ機能等を有効活用している事例がある。
- ・Facebook も学会 ML の代替にはならないので、完全に情報共有ツールを SNS に移行するのは難しい。

(4) その他

- ・学会 ML は情報も頻繁に投稿されており当面維持すべき。
- ・広報の編集・発信機能を事務局のみで担うと負担がかかり、また原稿依頼等のネットワークにも限界がある。
- ・地域グループ等のコミュニケーション機械の創出が必要／会員みなさんに自主的に広報をしてもらえる仕組みづくり。

3. 今後のスケジュールについて

- ・2020 年 1 月：新しいメルマガ（仮）、オウンドメディア（仮）、SNS 等についての検証（サンプル作成、運用実験等）
- ・2020 年 2 月：答申のとりまとめ

以 上